



NPO法人エシカファーム代表 風間 康寛 氏



プロフィール

静岡県東部で障がいのある方のサポート・ケアをしているNPO法人エシカファーム理事長、株式会社インクル代表取締役。障がいのある方の個性を活かしたモノ、コトを生み出すプロジェクト「ハチエイチ」にも取り組んでいる。

地域で育つ子どものために魅力的なまちを

三島市を中心に、静岡県東部8か所幼児から成人まで、障がいのある方たちのための支援施設を運営するNPO法人エシカファームとドリムケアふいる(以下エシカファーム)の代表を務める風間康寛さんにお話を伺いました。エシカファームは、障がいのある方の表現を、「カタチ」にして伝えるプロジェクト「ハチエイチ」という活動でも知られています。

——「ハチエイチ」について教えてください。

ハチエイチは6年ほど前に始まりました。8H、つまり8時間の意味で、働いた後8時間後の未来を幸せにしよう、という意味が込められています。

障がいのある子が高校を卒業すると、多くは作業所(福祉施設)で仕事をすることになります。当時はまだ子どもの支援だけで、大人を対象とした活動はしていませんでしたが、エシカファームを利用する子が働きたいと思えるような、お洒落な仕事、ユニークな仕事があったらいいなというところから始まりました。

沼津の八百屋さん(Rees)の小松さんと一緒に、臭くて邪魔にされていた干物のトロ箱を沼津の作業所さんに頼んで洗浄して白く塗り、カントリー風のお洒落な箱として

販売したのが最初のプロジェクトでした。プロジェクトのひとつ「kumu(くむ)」名刺プロジェクトは、エシカファームだけでなく、静岡県東部の障害のある方からも作品を募集して、彼らのアートを使ったオーダーメイドの名刺が作れるサービスです。彼らの個性を活かして、社会との繋がり、居場所を広げていく活動になっています。

地域ですっと暮らす子どもたちのために

——どのような思いで活動が続けているのでしょうか。

「障がいのある方と家族の未来を明るくする」という法人理念を掲げています。障がいのある子は、高校を卒業しても、親元を離れ、夢を求めて旅立つという選択を持つのが難しいのが現状です。ずっと地域で育ち、暮らしていく人たちの居場所を広げ、住み続けたいと思えるような魅力的な地域であることが大切だと考えています。

カフェや居酒屋を運営しているのも、「オシャレなカフェで働きたい!」「料理がしたい!」というエシカファームを利用する方たちの気持ちを受けて作った就職の場です。

真面目な支援と、仕事を楽しむ気持ちの両立

自閉症児の支援はデリケートです。きちんと専門知識を学び、最新情報をアップデートして、プロとして対応することが大前提ですが、その上で彼らとかわりながら、日々彼らから生まれる「あらわれ」を面白がって集めたり、オシャレにデザインしたりといったクリエイティブなことも大切だと考えています。

自分はこの2つの面を両立することを「しっかりやわらか」と言っています。施設では、子どもたちが安心していろいろかかがるのが最も大事です。委縮しないで話ができる、そんな楽しい大人が必要です。その話をスタッフにもするのですが、ひとりの人がこの両面をうまく使い分けることはなかなか難しいと感じています。

——ハチエイチの担当としてデザイナーさんがいますが、どのような考えかぶりでしょうか。

エシカファームではデザイナーをひとり雇用しています。アートの時間を設けたり、広報やグッズのデザインなど、「違う形」にすることをやってみようとしています。私の考えを受け、支援員とは違う立場で普通の職場ではなかなか体験できないようなことを楽しんでもらう担当です。

外部にお願いしてゲストとしてアーティストなどに来てもらうこともありますが、そんな「しっかり」と「やわらか」のバランスがいい施設にしていきたいです。

なかなか外から見えない障がい者施設が、地域全体で居場所を広げていくことが、「good local」につながると思います。2020年3月に三島駅近くにオープンした「ハチエイチ酒場」は、そのための場所になっていくいいなと思っています。

一人ひとりの特性を認めて、深めていくこと

私たちの施設に来るのは特別支援学校に通う知的障がいの子が多く、中でも自閉症の支援を得意としています。

自閉症は、興味の範囲が狭いという特性があります。例えば、ある子は家電製品が大好きで、室外機やらエレベーターやらにやたら詳しく、毎日説明書を書き写したりしています。学校教育は、みんなと同じことができるようになること、広げていくことを求める傾向がありますが、福祉では一人ひとりの特性を認めて、深めていくことが大切だと考えています。

かつては、障がいがある子が学校に通うようになると、その子の将来が見えてきて、思い悩む親御さんも多くいました。しかし、私から見れば、喋らないけど、前を向いて歩かないけど、でも面白い絵を描くよね。できないこともたくさんあるけれど、できることもたくさんあるよね、と見方を変えらることで、彼らの面白い表現をTシャツやマスキングテープ、缶バッジなど、別の形にするのを始めました。まずは、不安を抱えがちな親御さんに喜んでもらうために始まった活動です。



KENTA 展～自閉症の素敵な世界～

自閉症の特性のひとつに、想像力が働きのいいということがあります。休み時間になって、知っている足し算をひたすらすることで生まれたものです。指示がある方が安心するのです。

ケンタさんにとっては、日々生まれる数字で埋め尽くされた紙はあまり意味のないものですが、素晴らしい作品として、ハチエイチで生地を作ったり、コーヒーマグにケージに採用されたりしています。コンクールで賞を受賞し、熱海の街中で開催されたATAMI ART EXPOでは、彼の作品だけで個展を開催したこともあります。

次の課題は、絵を描かない子の面白さを、どうすく上げるかですね。——エシカファームの日々の活動では何を重視していますか?



ハチエイチ酒場



NPO 法人エシカファーム
静岡県三島市梅名 99-3 等
<https://ethicalfarm.com>

「三島カルチャーをつくる人びと」は、「三島の文化応援プロジェクト」が、三島周辺に拠点を置く企業や三島の文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビュアーするシリーズ企画です。配布場所/生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等 詳しくは下記のwebサイトをご覧ください。